

外部評価実施者からの意見(コメント)一覧

事業又は施策名【担当課】

45文化の家企画事業【文化の家】

全体に対する意見・提案等

文化の家が単なる貸スペースではなく、独自の文化的活動を多彩に展開されていることに敬意を表します。自分の住む街にこのような施設があることを誇らしく思います。長久手には大学が多く、学生や芸術家(その卵も含め)が多数在住しています。そういった特性を活かしたまちづくりが必要で、文化の家にはその中核を担っていただきたいと大いに期待します。

コロナ禍の中、制約が多くご苦勞をされていることと思います。対策を取りつつも、従来のような旺盛な文化活動が早く再開されることを願っています。

イベントの周知に関しては、HPや広報、新聞掲載、独自チラシなど様々な手段を講じておられると思います。アンケートなどで、参加者の情報入手方法を把握し、より効果的な方法(新規も含め)を探っていく必要があると考えます。

選定意図に「講座の統廃合について、委員の意見を伺いたい」とあるが、講座一覧を見る限り、文化の家が行う講座との重複は無く、それらの講座は継続しても良いと思われる。文化の家の利活用については、文化の家が行う事業を優先にするのか、市民が文化の家を施設利用する割合を増やすべきかを整理したうえで、事業の維持・縮小・拡大を検討すべきと考えます。

SNSの事も前回書きましたが、とてもいい事業だと思いますので、もっと参加者が増えていくよう、誰でも行きやすいような宣伝が必要だと感じます。

講座の受講料は収入源であるけれども、市民の施設利用とのバランスを保っているということで、今後も、この方針が続くのではないかと思います。文化の家を利用し、市民活動が活発になっていくことはよいことだと思います。SNSなどを使った情報発信は、若い世代には良いのではないかと思います。シニア世代には今一つ効果的でないかもしれません。いくつかの媒体を用い、わかりやすく(文字よりも視覚的に訴えるとよいかもしれません)を心がけるとよいと思います。

課題に対する意見・提案等

民間に類似の講座があるからというのは見直しの理由にはならないと考えます。文化的なイベントや講座を行政が主催していること、したがって近い場所で、低料金で利用できることが大きな便益であるからです。担当課の意見にもあるように、民間の講座とは趣旨も従って内容も異なっているのですから、横並びに扱うのは不適切だと考えます。

行革担当課としては、市民または民間が行う講座との統廃合を検討するようにとの意見があるが、営利を目的とする民間講座とはそもそもの目的が違うように感じる。担当課の意見にあるように「初心者にとって最初のきっかけを生むこと」を目的に継続的に事業を進めるべきと考えます。一方で、アンケート調査等をしっかりと行い、目的に沿った事業となっているかについては、継続的に実施し今後の方向性を検討すべきと思います。

アート講座はこれからもやっていただきたいと考える為、地域で回せるような対策を早めに行えば継続して行えると思うのでお願いしたい。

ウィズコロナのなかで、感染症拡大防止対策に十分に注意しながら、文化の家事業を進めていくことが大切だと思います。市民が「巣ごもり」状態にならず、文化の家事業等で元気になってもらいたいです。